

図書館員が選ぶ この一冊

37

『ビタミンF』 新潮社 重松 清／著

中年サラリーマンの視点で描く7つの短編から成る家族の物語。いじめや離婚、思春期など、どこにでもあるようだが、当事者になって初めて直面する家族の問題。日常の小さな事件を機に、「普通」な主人公たちはそれぞれの家族を思い、どう行動するのか。読後には、明日への活力が湧いてくる心のビタミン小説。



本作は第124回直木賞を受賞。各短編は目線こそ中年男性で語られるが、どれも血の通った人間性が描かれ、どこか人ごとでない身近さを感じる。ぜひ多くの方に、その機微に触れてみてほしい。家族を描くことが多い重松清の作品は、たびたび映画化や教科書に採用されている。